

心を育てる 岡崎の青少年赤十字



南山大学教授

松原 眞志夫 氏

教育随想

今年三月東京新霞ヶ関ビルで開催された日本赤十字社代議員会に柴田絃一市長さんとともに出席し、近衛の岡崎市立常磐小学校での県青少年赤十字研究委嘱校発表会の場面を思い出していました。県内加盟校の先の方が多数参加された体育館には、新加盟の旧額田町全小中学校を含めた市内加盟校の団旗が壁面に掲げられ、活動を表すパネルが展示されました。柴田昭雄校長先生の陣頭指揮で授業参観や活動発表など活気に満ちたプログラムが展開されました。赤十字は、人道の精神を基本として、他人の難儀を見るに見かねて立ち上がることに高い価値をおく活動です。日本赤十字社では千二百万人の社員（社資提供者）と三百二十万

人のボランティアが災害救援、医療活動、血液事業等を支えています。青少年赤十字は、第一次世界大戦中、戦争犠牲者に対して米、豪などの教員が児童生徒の作品を贈ったことを契機に国際赤十字社の重要な事業となり、今では世界中に活動が広がっています。一八六か国にネットワークを持ち、どの国のメンバーとも交流することができる国際性も備えています。

岡崎市では、教育長さんのご理解のもとに、石川貢先生をはじめ優れた指導者の長年にわたるご努力により質の高い活動が実践されています。今年三月までの三年間、内田幹也先生が岡崎市から赤十字愛知県支部に出身し、全県の青少年赤十字の指導に当たられました。



月報 岡崎の教育

平成19年5月1日

5月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
南山大学教授	松原眞志夫氏
この人に聞く	2
千賀の浦部屋	力士
姓名大	(田中 周一)氏
羅針盤	2
特別活動指導員	戸澤 剛
ふれあい	3
常磐小	内田佳寿美
岩津中	榊原 昌子
特集	4
開所30周年	岡崎市少年自然の家
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
第1回瀧山寺清掃活動	(昭和36年)
この本を	8



私も青少年赤十字に約四十年間携わってきました。市内各学校の先生方のご指導によって児童生徒の心が育つように、岡崎市民の一人として大きな期待を寄せています。

(まつばら ましお)

ふるさとシリーズ

この人に聞く



夢をつかむ力

千賀の浦部屋 力士

舛名大(田中 周二)氏

平成十九年の初場所、序の口で六勝一敗、優勝決定戦にも出場するという華々しいデビューを飾る。名古屋大学四年生に在学中のことであった。四股名は大学名にちなんで、舛名大。身長一八九センチメートル、体重一一八キログラムと恵まれた体格の田中さんは、笑顔でお話を聞かせてくださった。

「小学校はソフトボール、中学校は野球をやっていました。背は高かったのですが、ぼちゃぼちゃしていて、運動で活躍するタイプではありませんでした。でも、学校は楽しくて大好きでした。給食が好きで、何

回もお替わりしていました。」

田中さんが相撲と出会ったのは、大学祭の相撲大会だった。

「素人ばかりが出場する大会でした。体は大きかったので、自信はありました。でも、勝てませんでした。体当たりして、相手を倒せばよいだけと思っていた相撲に、奥深さを感じました。」

大会終了後、顧問の先生の熱心な勧誘もあり、相撲部へ入部する。

「特別強かったというわけでもありませんが、やればやるほど好きになりました。」

真摯に相撲に向かうその姿勢は、角界からも注目され、千賀の浦親方(元舛位山)から部屋入りを誘われるまでになった。卒業を控え、周りの人たちは当然のように大学院進学や企業への就職を勧めた。しかし、田中さんは相撲にこだわった。

「自分の人生なのだから、やりたいうようにやってみなさい。」



迷っていた田中さんの背中を押したのは、母親の一言であった。

「相撲界は力の世界。正直なところ、自分自身にも迷いがありました。でも、好きな相撲をやらないと、この先後悔するかもしれない。母親の一言から、このチャンスを生かしてみようと思ったわけです。」

そんな田中さんを待っていたのは、親方と十人の兄弟子であった。

「できないと怒られる。それでもできないと殴られる。外から見ると、理不尽に思えるかもしれませんが、自分は納得しています。また、礼儀作法や上下関係は、大切にしていきます。年下であっても、兄弟子にはもちろん敬語で話します。」

最後に、今後の抱負をお聞きした。「まずは、番付を序の口三段目までに上げたいです。そして、引退までに、何とか関取(十両以上)になることを目標にしています。大関だ、横綱だと、景気のいいことを、今は言えません。でも、自分で選んで入った世界ですから、積極的に攻めていきますよ。」

三場所所では五勝二敗。目標に向かって、また一歩進むことができた。現実を見つめ、自分を見つめ、今できる最善の努力を重ねていく。そんな田中さんの姿勢に、夢を現実にしていく強さを感じた。

氏 名 たなか しゅういち

(甲山中出身)

生年月日 昭和五十九年三月十六日

教師の信念

特別活動指導員 戸澤 剛



学級会では、出された意見の絞り込みが難しい。教師の適切な指導がなければうまくまとまらない。

A小学校四年の学級活動の授業。九人のA小の子が三十人余りのB小の子との交流会で遊ぶ内容を決める話し合いである。

「やりたいことを言ってください」と司会が言うや否や、「はい」と覇気のある声で挙手。「ドッジビーがいいです」という、C男の発言を皮切りにどんどん意見が出された。人数は少ないが、指名されると返事をしつと立ち、はっきりとした声で意見を述べる。「〇〇さんと似ていて」「つけたしで」と、次々と意見が続いていく。

「かくれ鬼はB小の子の名前がわからないのでやめたほうがよいと思います」。B小の子のことを考えた意見が出されたことによって、多く

わたしが育てたから

常磐小 内田佳寿美

野菜が大嫌いなA子は給食の時間に悪戦苦闘していた。

声をかけると、「野菜は苦手だけれど、おじいちゃんが育てたものなら食べる」と答えた。手間ひまかけて野菜を育てる姿に感謝し、苦手でも食べようという気持ちになっただの。

そこで、生活科の学習の野菜作りを通して、自分の手で育て収穫する喜びを味わわせ、食べてみようとする気持ちも引き出したいと考え、苗を植えるところから始めた。

「野菜、食べなくちゃだめかな」と後ろ向きなA子だが、夏の暑い日にも、「先生、草がいっぱいじゃかわいそうだね」と、額に汗を光らせて草とりをした。世話をするたび、



「前より大きくなった」「あっ、実ができたよ」と、育てる喜びを日々感じていった。その後もミニトマトの成長の様子を目を輝かせて報告に来た。

苗を植えて何日かしたある日、初めて収穫したミニトマトをA子はじつと見つめた後、ようやく口に運んだ。「おいしくないけれど、わたしが育てたから」と、口元は少しゆがんできたが、食べることができた。そんなA子の成長をうれしく思う。



心を一つに

岩津中 榊原 昌子

体育大会の学級対抗種目『迫り来る壁』は、担任を含めた三十四人三十五脚。足の速い子、遅い子、性格もいろいろ。だから、完走することが難しい。

「声を出して。」
「真ん中が速い。横に合わせて。」
一緒に練習しながら、私も声をかけ

る。生徒も完走を目指して頑張る。「寄ってくる走りにくい。」

「まっすぐ走って。」
生徒からも注文が出る。練習を重ね、やっと完走できるようになった。そして、迎えた本番。

「一、二。一、二。」
声を出して合わせようとしたが、次第に速さが増し、崩れてしまった。閉会式なのに、生徒たちは重い空気に包まれていた。

その様子を見て、最後の体育大会を完走しないまま終わらせることはできないと思った。閉会式後のわずかな時間で再チャレンジすることにした。観客のいない運動場でスタートラインについた。

「用意、ドン。」
クラスの心が一つになった。きれいな一線でゴールイン。歓声が上がった。肩を抱き合って喜ぶ生徒。

「こんな体育大会もいいね」という声に思わず涙がこぼれた。



の意見が少し絞られてきた。

さらに、D先生が「初めての交流会なので、先生はB小に行つて絶対にやりたいものが、この中に一つあります」。この言葉に全員が思いを巡らす。しばらくの沈黙の後、E男が「B小の子に教えてもらえる遊び」と、残っている意見の中から選んだ。教室中に納得した雰囲気の流れた。この後の話し合いでは「B小の子」という言葉が発言によく表れた。「楽しく交流するために相手のことを考える」という、一番大事なところが大切にされた話し合いとなった。

学級会では、子供が自由に話し合うことが大切にされるあまり、教師が指導を控えてしまい、結果として話し合いが的外れてしまったり、深まらなかつたりする場面が多い。D先生の指導は大変見事であった。授業後、D先生に「少人数だがきちんと学級会の手続きを踏み、拳手や発言の仕方でも大変立派だった」とを告げた。

「今は少ない人数ですが、中学校に行けば大人数の中で生活します。そのときに困らないように指導をしていきたいのです。」
先のことを見通したD先生の確固たる信念を感じた。

自然に親しみ 友とかがわる



開所30周年 岡崎市少年自然の家

岡崎市少年自然の家は、今年で開所三十周年を迎えた。

二十一世紀の今、子供たちが自然にふれる機会は日に日に減少している。しかし、岡崎市ではこの少年自然の家での野外活動や宿泊体験を通じて、市内の小中学生が自然に親しみ、友とかがわり、価値ある学びを育んできた。

少年自然の家は、三十年の歴史の中で、キャンプ場や創作棟などの施設を少しずつ整備してきた。同時に、落ち葉スキーやカヌーなどの野外活動プログラムの充実を図ってきた。平成十七年には、「ほたるの広場」のとなり、「多目的広場」が新設された。昨年には、「ヘイケの沼」も完成して、新たな野外活動プログラムも開発されている。子供たちが、自然の中で豊かに学ぶことができるように、職員の方々も日夜奮闘してきた。

また、学校主催の活動だけでなく、少年自然の家が主催して「星空に親しむ会」や「ワイルドキャンプ」なども継続して行っている。平成十四年からは「ネイチャークラブ」への参加を市内の児童生徒に呼びかけ、年間を通して活動している。市民が自然との共生を学ぶ施設として、大事な役目を担ってきた。

十月十六日には三十周年記念式典を予定している。これからも多くの子供たちが、自然とふれあい、自立・友愛・協力の精神を学ぶことができる、より充実した施設として発展していくことを期待したい。

三十年のあゆみ

昭和五十年	十月	工事着工
昭和五十二年	二月	管理棟・宿泊棟・炊事場完成
昭和五十三年	三月	第一キャンプ場完成
昭和五十四年	五月	少年自然の家開所
昭和五十五年	六月	ほたるの広場完成
昭和五十六年	三月	体育館完成
昭和五十七年	二月	第二キャンプ場新設
昭和五十八年	三月	遊歩道完成
昭和五十九年	三月	野外遊具施設設置
昭和六十年	二月	シンボルマーク制定
昭和六十二年	三月	天体観測所完成 雨天炊事場完成
平成元年	十一月	所歌「山のなかまこと」制定
平成三年	九月	カヌー進水式
平成四年	九月	くらくら橋設置
平成七年	八月	展望台完成
平成九年	三月	雨天ファイヤー場完成 創作棟完成



▲ 20周年事業として造られた創作棟

30年間で育んできた豊かな野外活動プログラム



▲ 野外遊具場でのフィールドアスレチック (昭和58年～)



▲ 落ち葉スキー (昭和52年～)



▲ 野外キャンプ (昭和52年～)

自然の中で



▲ 水路を利用した魚つかみ



▲ ドラム缶風呂 (平成7年～)

友とついでに



▲ 乙川でのカヌー体験 (平成元年～)



▲ 創作棟での造形教室 (平成9年～)

30周年記念事業

〈施設の改善・整備〉

- ・第2キャンプ場雨天炊事場の増設
- ・「ハイケの沼」の整備及び看板の設置
- ・落ち葉スキー場の一部改修
- ・宿泊棟身障者用トイレの設置
- ・少年自然の家のメイン看板の改善

〈野外活動プログラム〉

- ・「ハイケの沼」を活用した環境学習プログラムの導入

少年自然の家主催事業

(平成19年度実施予定)

- 4月 春の植物ウォッチング
- 5月 ネイチャークラブ開始 (年7回開催)
- 6月 ほたるに親しむ夕べ
初夏の虫ウォッチング
- 8月 すぶちワイルドキャンプ
- 11月 すぶちの秋にふれあおう
- 12月 山の木で工作
- 2月 星空に親しむ会



▲ 星空に親しむ会 (平成元年～)



▲ ネイチャークラブ (平成14年～)

平成十九年 十月 三十周年記念式典 (予定)

「ハイケの沼」では、ハイケボタルを見る事ができます。この沼の名前もそのハイケボタルからつけました。トンボやメダカもいます。この沼で、自然のままに生きている昆虫や生き物の様子を見てください。

竹川所長のお話より



▲ 自然観察活動ができる「ハイケの沼」

平成十八年 三月 「ハイケの沼」完成



▲ ほたるの広場より広い多目的広場

平成十三年 三月 第一キャンプ場増設

平成十五年 三月 第二キャンプ場増設

平成十七年 三月 多目的広場完成



● 教育最新情報

○命を大切にしている教育の実践

昨年度、愛知県県民生活部 主管の「命を大切にしている心を育む教育推進事業」に山中小学校と梅園幼稚園が取り組んだ。今回は、その実践の一端を紹介する。

◆人・自然と出会い、かかわり合い、命輝ける子に

山中小学校

本校では、命の尊さを学び、自ら命を輝かせて生きる姿を「生きる喜びを実感できる子」として、教育課程全般で研究実践を進めている。目指す子供像に迫るために重視してきたことは、子供同士のかかわり合い、子供と家族や地域の人々、自然とのふれあい体験活動である。

目指す姿に合わせて総合学習や教科学習、道徳・特活を意図的に仕組む「命かがやき



▲ 「ふれあい会食」での肩たたき

学習」を行っている。行事等では、異学年交流の「スクラム運動会・給食・遠足」や、家族やお年寄り等が参加をする「ふれあい会食」「ふれあい授業」「ふれあい清掃」に力を入れてきた。

◆命を大切にしている教育（人や自然とのかわりを通して）
梅園幼稚園
本園は、幼児期に経験させたいことを①十分な愛情を受けて、大切にされている経験②自分を十分出して自他の関係に気付く③身体を思いきり動かして、心が揺れ動く体験④人と葛藤したり共感したり思いやりたりする⑤幼児文化（絵本、話、歌、音楽）等の世界に触れながら勇気を育む⑥生まれるとか、死ぬということへの遭遇の六項目とした。そして、動植物の飼育栽培活動・絵本の読み聞かせ、教育講演会『育つ力と育てる努力』学年懇談会『命について』、親子学級、特老施設慰問など実践を積み重ねてきた。



▲ マザーさんによる絵本の読み聞かせ

● 教員免許取得

○小・中の一種免許取得

教育職員免許法第九条で、一種免許状の取得努力義務が課せられ、単位修得に高い関心が寄せられている。

現在、隣接校種（小学校教員なら幼稚園と中学校）の免許取得で、優遇措置がとられており、ぜひ、小・中の両免許を取得するようにしてほしい。

○免許状の種類

免許状の種類は、主に「専修」「二種」「三種」の三段階である。教員を続けながら免許を取る方法としては、大学の通信教育で所定の単位を修得する方法と、認定講習等で単位を修得する方法がある。

○免許状の申請

免許状の申請には、主に次の四つが挙げられる。
①上位免許状の申請
②他教科の免許状の申請
③特別支援学校免許状の申請
④隣接校種の免許状の申請
在職年数に応じて、必要単位数が通減されたり、教育実習が免除されたりしている。

※①の免許を年度内に希望される方は十一月末までに提出。

※②③④の免許を年度内に希望される方は、一月末までに提出。

○教育職員免許法認定講習

申込書は、毎年五月中旬に配付を予定している。
・ 口座数は、約二十五講座
・ 一講座当たり一単位
・ 講座は、八月の指定日
※詳しくは、岡崎市教育委員会学校指導課 免許担当まで。

● 二十四時間いじめ相談ダイヤル

今年二月より、国や県ではいじめ問題について、臨床心理士が児童・生徒や保護者の相談に24時間体制で応じる「いじめ ほっとライン24」を開設した。これにより、夜間、休日を含めて二十四時間、電話相談ができるようになった。

こころの電話

☎（〇五二）二六一―九六七―

※愛知県教育・スポーツ振興財団

全国統一ダイヤル

☎〇五七〇―〇七八三一〇

※PHS、IP電話はつながらない。

◆平成十九年度校長会役員

＜小中学校長会役員＞

会長 福應 謙一(連尺小)
副会長 野本 欽也(大門小)

大久保慎一(竜海中)
石原比朗志(美川中)
太田 修司(本宿小)

庶務 早川 正春(竜美丘小)
河村 喜美(城北中)

庶務補佐 松井 伸市(根石小)
會計 神尾 光伸(梅園小)

會計補佐 鈴木 由郎(甲山中)
評議員 本多 久勝(宍粟郡)

神尾 心一(広幡小)
光岡 良平(男川小)
鳥居 正巳(矢作東小)

豊田 文男(夏山小)
大久保幾三(緑丘小)
長坂 信一(三島小)

長坂八重子(愛宕小)
江坂 良夫(岩津小)
山中三江子(恵田小)

尾崎 芳信(矢作中)
菅原 秀美(河合中)
野村 正文(六ツ美中)

内田 明夫(竜南中)
河合 安男(北中)
野々山宏司(岩津中)

＜小学校長会＞

会長 野本 欽也(大門小)
副会長 太田 修司(本宿小)

光岡 良平(男川小)
會計監査 本多 久勝(宍粟郡)

庶務 早川 正春(竜美丘小)
會計 神尾 光伸(梅園小)

會計補佐 山中三江子(恵田小)
＜中学校長会＞

会長 大久保慎一(竜海中)
副会長 石原比朗志(美川中)

河村 喜美(城北中)
會計監査 小林 國良(額田中)

庶務 菅原 秀美(河合中)
會計 菅沼 国雄(葵中)

會計補佐 鈴木 由郎(甲山中)
＜専門委員会委員長＞

法制 菅沼 国雄(葵中)
理財 酒井 久男(福岡中)

給与 早川 正春(竜美丘小)
文教 大岡 久芳(矢作北中)

進路 山本 悟(宍粟北中)
研修 岡田 要(城南小)

保健 尾崎 芳信(矢作中)
福安 平松 敏明(下山小)

給食 渡辺 邦夫(新香山)
広報 大久保幾三(緑丘小)
生徒指導 坂井 節(東海中)

◆平成十九年度研究発表表

●六月二十二日 東海中学校
市委嘱「豊かな心を育む
―笑顔でチャレンジ―」

●九月二十八日 矢作東小学校
自主「国語力向上をめざす授
業―確かで豊かな音声表現
力を伸ばす指導を通して―」

●十月十七日 藤川小学校
県視聴覚教育研究会委嘱「自
ら問いを追究する子の育成
―パソコンなどのメディアや
LANの活用を通して―」

●十月二十四日 六ツ美北部小学校
市委嘱「自ら学び、共に高め
あう子の育成―地域とむつ
み合い、学ぶ力を育てる―」

●十月三十一日 梅園小学校
市委嘱「自ら考え、進んで学
ぶ子どもの育成―一人一人
の考えを生かし、かかわり合
いを通して深め合う授業づくり―」

●十一月十四日 形埜小学校
県へき地教育研究協議会主
催「(仮題)ふるさとにか
かわり、生き生きと思いを
伝え合う子どもの育成―
地域教材の開発と学習過程
の工夫―」

●十一月二十日 竜海中学校
自主「五十一分を演出する
―生徒の学ぶ力を鍛える授
業の創造―」

◆岡崎市教育委員学校訪問

●下山小学校 四月二十六日
●広幡小学校 五月十日
●河合中学校 五月十七日

●根石小学校 六月十四日
●夏山小学校 六月二十八日
●矢作幼稚園 九月二十七日

●北中学校 十月四日
●矢作中学校 十月十八日
●竜南中学校 十一月二十二日

●連尺小学校 一月十七日
●矢作北小学校 一月二十四日
●城南小学校 一月三十一日

●六ツ美西部小学校 二月七日
●北野小学校 二月十四日

●大樹寺小学校 五月十九日(土)に、岡崎で
開催される。午後一時より南
公園で、地元岡崎小・上地小
児童も参加して記念植樹が行
われる。その後、アイプラザ

●市民大学運営委員会
●月報「岡崎の教育」編集委員会
●教員の研修に関する委員会
●学校環境緑化推進委員会
●野外活動委員会

●情報教育推進委員会
●行事・部活動・学校五日制
研究委員会

●のこの教育推進委員会

●特色ある学校づくり委員会
●郷土読本編集委員会
●教育課程第一研究委員会
●教育課程第二研究委員会

◆その他の関係委員会
●岡崎市中学校区児童生徒健
全育成連合協議会
●岡崎市就学指導委員会
●岡崎市中学校特別支援学級
進路指導委員会

●岡崎市いじめ・不登校対策委員会
●岡崎市特別支援教育連携協議会
●岡崎市OC連絡協議会

●岡崎市OC連絡協議会

●岡崎市OC連絡協議会

●岡崎市OC連絡協議会

●岡崎市OC連絡協議会

●岡崎市OC連絡協議会

●岡崎市OC連絡協議会

●岡崎市OC連絡協議会

●岡崎市OC連絡協議会

・カ
ツ
ト
新香山中 金澤 一幸

第1回瀧山寺清掃活動

(昭和36年)

写真提供：常磐中学校

鎌倉時代に建立され、広い寺領を有す瀧山寺と、農作物の実りに感謝し、豊作を祈願する鬼まつりは、学区民の誇りである。この有形無形の文化財を大切にしていこうと、昭和三十六年から、生徒による清掃活動が始まった。写真は、第一回の清掃活動の様子である。また、昭和五十一年から瀧山寺の節分会と鬼まつりの当日には、生徒の作った土鈴を販売している。個性あふれた土鈴は、参拝客に、今なお好評である。子供たちは、地域の自然や文化の中で育つ。現在、どの学校も特色ある教育を目指して、地域とのかかわりを強めている。



岡崎の教育



勝負の世界は厳しいものだ。一つの負けで番付が変わる。笑顔でインタビューに応じてくださった舛名さんも相撲の話となると、真顔になった。十三日からは五月場所が始まる。我々にも教室という土俵が待っている。一番一番、真剣に子供たちにつづかっていきたい。

シオ スア

炊飯活動や落ち葉スキーなど、少年自然の家で友達といっしょに体験したことは、大人になってからも忘れない。今年で三十周年を迎えた岡崎市少年自然の家。これからも多くの子供たちがこの場所ですばらしい感動を味わい、友達との絆を深めていくであろう。

岡崎市の花である藤が見ごろを迎えた。名所の一つである岡崎公園には、桜に引き続き、藤を見ようと毎年多くの人が訪れる。下旬からは東公園で菖蒲まつりが開かれる。新緑が映え、風薫る五月。日を浴びてぐんぐん育つ植物のように、元氣よく生活したいものだ。

朝一番、元氣よく子供たちとあいさつを交わす。ツバメたちは五月の新緑の中を、すいと風を切る。命が躍動する初夏。このひと月、環境が大きく変わる中、トップギアで走ってきた子供たちにとっても一休み。連休明けには、ギアをチェンジして、また違った成長を見せてくれるに違いない。



- * 貝と羊の中国人 加藤 徹 ￥756
新潮新書
- * 壊れる日本人 柳田 邦男 ￥1470
新潮社
- * 武士道と日本型能力主義 笠谷和比古 ￥1365
新潮選書
- * 隠し剣 秋風抄 藤沢 周平 ￥619
文春文庫

* 昭和史 戦前編・戦後編 半藤 一利 ￥1680/1890
平凡社
戦争の呪縛がなかなか取れないでいる。しかし、今や戦後生まれの教師ばかりになり、教育基本法も改正された。いかに日本人は戦争に向かい、いかにして終わらせたか。そして、今の平和を勝ち得たか。「昭和」が改めてよくわかる本である。社会科の教師というより、若者にぜひ読んでほしい。少々分厚く読みごたえがあるが、豊富な資料と平易な文章が、理解を助けてくれる。